「ＮＰＯ」ワンポイント・アドバイス

～会議の小道具選びのコツ～

会議の時には、様々な小道具を使います。どうせ買うなら、使いやすいものを揃えておくと、より効果的な会議ができるようになります。そこで今回は、会議の時の小道具（事務消耗品）選びのコツをお伝えします。

❶ 水性マジック

なんといっても、三菱鉛筆プロッキーが一番です。書きやすさ、ペン先の状態等理想的。色は、８色（黒、青、赤、紫、緑、茶、橙、水色）あれば十分。それ以上多くなると、使いこなせなくなる場合も。油性マジックは臭いが苦手な人がいたり、紙の裏移りがしやすいのでお勧めしません。かすれだしたものは、直ぐに輪ゴム等で別にしておきましょう。

❷ 付せん

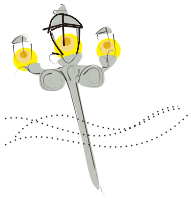
１００円ショップのものもありますが、粘着力が弱く途中で落ちやすいので要注意。高い物ほど粘着力が強くなります。会議で使用の場合、7.5㎝四方のものが使いやすいです。青、赤、緑、黄の４色を多めに用意しておきましょう。上に引っ張るようにはがすのではなく、横にめくるようにはがすのがコツ。カールの具合が変化して、はがれにくくなります。

❸ ホワイトボードマーカー

すぐにかすれやすくなるので、要注意。はっきり見えて濃さがあるのは、パイロット社のボードマスター（中字・丸芯）。定番の黒・赤・青に加え、緑・橙も用意しておくと表現の可能性が広がります。

❹ 投票用シール

参加者の意見の傾向を把握する場合に使います。挙手よりも匿名性が高くビジュアル的に分かりやすいので、人間関係に影響することなく把握できます。提案のそれぞれをコピー用紙に書き出し掲示し、そこにシールを貼ってもらいます。直径８㎜の丸シール４色（青、赤、緑、黄）を用意し、色の使い方や場所などを工夫して貼っていけば、様々な視点での傾向を知ることができます。



相談希望の方は、まちセンへ　まちづくりセンターでは、もっと具体的な「小道具選び」についても、相談を受け付けています。お気軽にご相談ください。

参考資料：青木将幸著『市民の会議術　ミーティング・ファシリテーション入門』（ハンズオン！埼玉　出版部）

センター長のつぶやき

丸藤 競

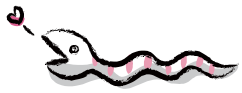
２０１２年の新語・流行語大賞は、「ワイルドだろぉ」でした。対抗してという訳ではありませんが、まちづくり関係の新語・流行語大賞を考えました。

大賞は「エシカル」。

日本では、東日本大震災以後、聞かれるようになりました。エシカルとは、倫理的・道徳的という意味の英語ですが、もっと踏み込み、環境や健康的生活、持続可能性、人権や貧困、児童労働、伝統や職人技の再評価、地域コミュニティの維持等、広い分野への社会的配慮や責任という意味で使われています。これらの課題を、お洒落でデザイン性豊かに、しかも経済活動に組み込む形で解決していく点が新しい魅力になっています。

二位は「ソーシャル・ファイター」。

最近、社会貢献活動に、カッコいい！楽しい！というノリで積極的に参加することで「世界を変えてやろうと」思っている人が増えています。そういった人々をソーシャル・ファイターと言います。

私は、この二つの言葉が日本活性化へのキーワードになると感じています。

芸人が大賞を取ると翌年には消えるというジンクスがありますが、まちづくりに関するこの二つの言葉は、今後もさらに飛躍していってもらいたいと強く願っています。